

自然教育園のハバチ・キバチ類

篠原明彦*

Sawflies and Woodwasps in the Garden of the Institute for Nature Study, Tokyo

Akihiko Shinohara*

はじめに

ハバチ・キバチ類は、原始的な特徴を多く残したハチの仲間で、幼虫はガやチョウの幼虫のように植物の葉を食べたり樹木の幹や枝に穿孔して成長する。日本からはこれまでに11科約700種が知られている。自然教育園のハバチ・キバチ類については、東京都内としては比較的良く調べられており、1949年から1951年にかけて行われた調査に基づいて4科41種が記録されている(文部省国立自然教育園, 1952)ほか、久居(1993, 1999)が2種を追加報告している。今回1999年と2000年に4回にわたり同園内においてハバチ・キバチ類の調査を行ったのでその結果を報告する。

採集はほとんどが捕虫網による見つけ取りかスウィーピングによって行った。標本はすべて国立科学博物館動物研究部に保管されている。各種の和名、学名、分布データについてはおもに阿部・富樫(1989)、寄主植物に関するデータはおもに奥谷(1967a, b, 1970)によった。その後の追加および訂正については、文献を引用しあるいはコメントを付した。

調査にご協力いただいた矢野亮、久居宣夫両氏をはじめ自然教育園の方々、標本を提供していただいた東京医科歯科大学の篠永哲博士、名城大学の有田豊博士ならびに東京都立大学の神保宇嗣氏に厚くお礼を申し上げる。

1. 調査結果と考察

今回の調査では、クピナガキバチ科1種、ミフシハバチ科1種、ハバチ科27種の3科29種(これまでに種名の明らかになったもの24種を含む)のハバチ・キバチ類の生息を確認した(このほかハバチ科キモンハバチ属が65個体採集されているが種までの分類ができなかった)。このうち、すでに自然教育園から記録されていたものはハバチ科の10種のみで、これまでの調査結果(文部省国立自然教育園, 1952; 久居, 1993, 1999)と合わせると自然教育園のハバチ・キバチ類は5科60種あまりとなった。これは種数で比較すれば最近行われた皇居での調査結果(7科60数種, 篠原, 2000)にほぼ匹敵する。

今回、自然教育園で得られたもので種名を決定できた24種のうち、皇居で得られなかったものはわ

* 国立科学博物館 動物研究部, Department of Zoology, National Science Museum, Tokyo

ずかに2種であり、現在の両地域のハバチ・キバチ相には共通する部分の多いことが示唆された。一方、今回の自然教育園の調査では、50年前に行われた調査で得られたハバチ・キバチ類41種のうち76%にあたる31種を再発見することができなかった。この31種のうち、21種は皇居の調査でも得られておらず、現在の東京都区内で発見される可能性は高くない。自然教育園の前回と今回の調査結果にみられる大きな違いは、自然教育園ならびにその周囲の自然環境の変化によるハバチ・キバチ相の変化を反映している可能性が高いと考えられる。

2. 今回の調査で得られたハバチ・キバチ類

ここに記したもののほかハバチ科に2種、今のところ属を決定できないものがあり、またキモンハバチ属 *Pachyprotasis* については数種が含まれると思われるが種名を決定できなかった。

クビナガキバチ科 Xiphydriidae

1. クロクビナガキバチ *Xiphydria annulitibia* Takeuchi, 1936

検視標本：11. VI. 1999, 1♀ (有田・神保)。

分布：日本（北海道，本州，四国），サハリン。寄主植物：不明

大変個体数の少ない種で、東京およびその近郊で採集された例はなかったが、最近皇居から記録された（篠原，2000）。

ミフシハバチ科 Argidae

1. カタアカチュウレンジ *Arge rejecta* (Kirby, 1882)

検視標本：7. V. 1999, 3♂1♀。

分布：日本（本州，四国，九州，対馬，屋久島）。寄主植物：キイチゴ類

あまり多くない種である。皇居でも採集されている（篠原，2000）。

ハバチ科 Tenthredinidae

1. ヒメクサソテツハバチ *Hemitaxonus struthiopteridis* (Forsius, 1910)

検視標本：14. IV. 1999, 15♂1♀；21. IV. 1999, 3♂；18. IV. 2000, 13♂。

分布：日本（北海道，本州），千島，シベリア，ヨーロッパ。寄主植物：クサソテツ類

皇居からも記録されている（篠原，2000）。

2. ナガゼンマイハバチ *Strongylogaster secunda* (Takeuchi, 1929)

検視標本：21. IV. 1999, 3♂2♀；7. V. 1999, 1♂。

分布：日本（北海道，本州，四国，九州）。寄主植物：ゼンマイ

「*Pseudotaxonus secundus* Takeuchi スジグロハバチモドキ」の名ですでに自然教育園から記録されている（文部省国立自然教育園，1952）ほか、都内では皇居でも採集されている（篠原，2000）。

3. スギナハバチ *Dolerus subfasciatus* Smith, 1874

検視標本：14. IV. 1999, 1♂1♀。

分布：日本（本州）．寄主植物：スギナ

すでに自然教育園から記録されている（久居，1993）ほか，東京都区内では皇居でも得られている（篠原，2000）。

4. カタアカスギナハバチ *Loderus genucinctus insulicola* (Rohwer, 1910)

検視標本：14. IV. 1999, 5♂3♀；21. IV. 1999, 2♂；18. IV. 2000, 6♂4♀.

分布：日本（本州，九州）．寄主植物：スギナ

各地にふつうの種で，都内では皇居から記録がある（篠原，2000）。

5. サクラヒメハバチ *Trichiocampus pruni* Takeuchi, 1956

検視標本：14. IV. 1999, 1♂.

分布：日本（北海道，本州），千島．寄主植物：ソメイヨシノ

すでに自然教育園から記録されている（文部省国立自然教育園，1952）ほか，東京都区内では皇居でも得られている（篠原，2000）。

6. *Profenusa japonica* Togashi, 1981

検視標本：21. IV. 1999, 1♂.

分布：日本（本州，四国），ヨーロッパ．寄主植物：不明

幼虫が植物の葉に潜るハムグリハバチの1種である．都内では皇居からも記録されている（篠原，2000）。

7. *Eutomostethus togashii* Seiyama, 1981

検視標本：7. V. 1999, 6♂.

分布：日本（本州）．寄主植物：不明

東京都区内では，皇居でも得られている（篠原，2000）。

8. ヒゲナガクロハバチ *Phymatocera nipponica* Togashi, 1958

検視標本：21. IV. 1999, 6♂.

分布：日本（本州，四国，九州）．寄主植物：ナルコユリ類

東京都区内では，これまで採集されたことはないと思われる。

9. *Stethomostus* sp.

検視標本：21. IV. 1999, 1♂.

10. オオシロオビクロハバチ *Allantus meridionalis* (Takeuchi, 1933)

検視標本：18. IV. 2000, 1♀.

分布：日本（本州，四国，九州）．寄主植物：バラ類，オランダイチゴ

皇居でも採集されている（篠原，2000）。

11. タデハバチ *Allantus nigrocaeruleus* (Smith, 1874)

検視標本：7. V. 1999, 1♂1♀.

分布：日本（本州，四国），台湾 (Chou & Naito, 1991). 寄主植物：ミゾソバ
皇居でも採集されている（篠原，2000）。

12. イタドリクロハバチ *Ametastegia polygoni* Takeuchi, 1929

検視標本：14. IV. 1999, 1♂.

分布：日本（本州，九州）。寄主植物：イタドリ
皇居でも採集されている（篠原，2000）。

13. セグロカブラハバチ *Athalia infumata* (Marlatt, 1898)

検視標本：20. XIII. 1998, 1♂ (篠永)；14. IV. 1999, 1♂1♀；21. IV. 1999, 2♂；7. V. 1999, 3♂；
16. VI. 1999, 1♀ (C. T. Zahng)；14. X. 1999, 1♂ (篠永)；18. IV. 2000, 1♂.

分布：日本（北海道，本州，四国，九州），千島。寄主植物：イヌガラシ，アブラナ類
ふつうに見られる種で，東京都区内では自然教育園からすでに記録されている（文部省国立自然教育園，1952）ほか，目黒区（東京都目黒区，1985），板橋区（篠原，1986），北区（東京都北区，1988）および皇居（篠原，2000）から記録されている。

14. イヌノフグリハバチ *Athalia kashmirensis* Benson, 1932

検視標本：19. IX. 1998, 1♀ (篠永)；14. IV. 1999, 1♀.

分布：日本（本州，四国，九州，対馬，沖縄），中国，インド。寄主植物：クワガタ類
東京都区内では北区（東京都北区，1988）および皇居（篠原，2000）から記録されている。

15. カブラハバチ *Athalia rosae ruficornis* Jakovlev, 1898

検視標本：7. V. 1999, 1♂.

分布：日本（北海道，本州，四国，九州，沖縄），東アジア。寄主植物：ダイコン，カブ
東京都区内では，「*Athalia rosae japonensis* Rohwer」の名で，すでに自然教育園（文部省国立自然教育園，1952）から記録されているほか，北区（東京都北区，1988）ならびに皇居（篠原，2000）でも得られている。

16. *Empria* sp. 1

検視標本：14. IV. 1999, 1♀.

17. *Empria* sp. 2

検視標本：18. IV. 2000, 5♀.

18. ツノキクロハバチ *Taxonus fulvicornis* Matsumura, 1912

検視標本：21. IV. 1999, 1♂.

分布：日本（北海道，本州，四国，九州），千島，サハリン，シベリア，朝鮮半島．寄主植物：イタドリ

東京都区内では，皇居から記録がある（篠原，2000）。

19. ウラシマソウハバチ *Aglaostigma albicinctum* (Takeuchi, 1953)

検視標本：14. IV. 1999, 3♂.

分布：日本（本州，四国，九州）．寄主植物：テンナンショウ類

東京都区内では，「*Macrophopsis albisineta* Takeuchi」の名で，すでに自然教育園から記録されている（文部省国立自然教育園，1952）。

20. ツマジロクロハバチ *Macrophya apicalis* Smith, 1874

検視標本：14. IV. 1999, 1♂；21. IV. 1999, 23♂8♀；7. V. 1999, 2♀.

分布：日本（北海道，本州，四国，九州），千島．寄主植物：ニワトコ

東京都区内では，すでに自然教育園から記録されている（文部省国立自然教育園，1952）ほか，皇居でもふつうに見られる（篠原，2000）。

21. オオクロハバチ *Macrophya carbonaria* Smith, 1874

検視標本：14. IV. 1999, 3♀；18. IV. 2000, 1♀.

分布：日本（北海道，本州，四国，九州，対馬），千島，サハリン，朝鮮半島 (Kim et al., 1994).

寄主植物：ニワトコ

上記の種と同様，各地にふつうの種で，すでに自然教育園から記録されている（文部省国立自然教育園，1952）ほか，皇居でも得られている（篠原，2000）。

22. クロハバチ *Macrophya ignava* Smith, 1874

検視標本：18. IV. 2000, 3♂.

分布：日本（北海道，本州，四国，九州），朝鮮半島．寄主植物：ヤブイバラ

東京都区内では，すでに自然教育園から記録されている（文部省国立自然教育園，1952）ほか，皇居でも得られている（篠原，2000）。

23. コクロハバチ *Macrophya timida* Smith, 1874

検視標本：14. IV. 1999, 1♂；21. IV. 1999, 1♀.

分布：日本（本州，四国，九州），朝鮮半島 (Kim et al., 1994). 寄主植物：イボタ類，ムラサキハシドイ

東京都区内では，皇居から記録されている（篠原，2000）。

24. コシアカハバチ *Siobla sturmii* (Klug, 1818)

検視標本：14. IV. 1999, 2♂；18. IV. 2000, 12♂.

分布：日本（北海道，本州），千島，シベリア，ヨーロッパ，寄主植物：不明

東京都区内では、皇居から記録されている（篠原，2000）。

25. コシアキハバチ *Tenthredo gifui* Marlatt, 1898

検視標本：21. IV. 1999, 1♀3♂；7. V. 1999, 1♀；18. IV. 2000, 1♀.

分布：日本（北海道，本州，四国，九州），サハリン（Takeuchi, 1936）. 寄主植物：ハコベ類.

東京都区内では、すでに自然教育園から記録されている（文部省国立自然教育園，1952）ほか、皇居でも得られている（篠原，2000）。

3. これまでの調査で記録され（文部省国立自然教育園，1952；久居，1999），
今回の調査では発見されなかったもの。

文部省国立自然教育園（1952）によって記録された種については標本の所在を確認できなかった。同報告で使われた学名のうち、現在の用法と異なるもの、あるいは綴り等に誤りがあるものはカッコ内に示した。

キバチ科 Siricidae

ニホンキバチ *Urocerus japonicus* (Smith, 1874)

ニトベキバチ *Sirex nitobei* Matsumura, 1912

クロヒラアシキバチ *Tremex apicalis* Matsumura, 1912

コンボウハバチ科 Cimbicidae

アケビコンボウハバチ *Zaraea akebii* Takeuchi, 1931

アオコンボウハバチ *Zaraea lewisii* (Cameron, 1886)

ナシアシプトハバチ *Paleocimbex carinulatus* (Konow, 1897) (*Cimbex carinulate* Konow)

ホシアシプトハバチ *Agenocimbex jucundus* (Mocsáry, 1896)

ミフシハバチ科 Argidae

ルリチュウレンジ *Arge similis* (Vollenhoven, 1860)

ニホンチュウレンジ *Arge nipponensis* Rohwer, 1910

アカスジチュウレンジ *Arge nigrinodosa* (Motschulsky, 1859)

チュウレンジバチ *Arge pagana* (Panzer, 1798)

ハバチ科 Tenthredinidae

オスグロハバチ *Dolerus similis japonicus* Kirby, 1882 (*Dolerus japonicus* Kirby)

クシヒゲハバチ *Cladius pectinicornis* (Geoffroy, 1785)

ニホンカブラハバチ *Athalia japonica* (Klug, 1815)

ハグロハバチ *Allantus luctifer* (Smith, 1874) (*Allantus lutifer* Smith)

チャイロハバチ *Nesotaxonus flavescens* (Marlatt, 1898)

オオコシアカハバチ *Siobla ferox* (Smith, 1874)

- コマルクロハバチ *Macrophya crassuriformis* Forsius, 1925
 マライセクロハバチ *Macrophya malaisei* Takeuchi, 1937
 シマクロハバチ *Macrophya falsifica* Mocsáry, 1909
 ヒゲナガハバチ *Lagidina platycerus* (Marlatt, 1898) (*Lagium platycerus* Marlatt)
 クロムネハバチ *Lagidina irritans* (Smith, 1874) (*Lagium nigropectus* Kirby)
 クロムネアオハバチ *Tenthredo nigropicta* (Smith, 1874) (*Tenthredina nigropicta* Smith)
 トガリハチガタハバチ *Tenthredo fortunei* (Kirby, 1882) (*Tenthredina flavida* Marlatt)
 オオツマグロハバチ *Tenthredo providens* Smith, 1874 (*Tenthredella providens* Smith)
 シケシダハバチ *Neostromboceros sinanensis* Takeuchi, 1941
 シケシダトガリハバチ *Hemitaxonus minomensis* Takeuchi, 1929
 ウマノアシガタハバチ *Stethomostus fuliginosus* Schrank, 1781 (*Stethomostus fuliginosus* Schrank)
 ムモンムネアカハバチ *Eutomstethus hyalinus* Takeuchi, 1936 (*Eutomstethus hyalinus* Takeuchi)
 アカネハバチ *Hemibeleses nigriceps* Takeuchi, 1929 (*Hemibeleses nigriseps* Takeuchi)
 アジサイハバチ *Perineura okutanii* Takeuchi, 1959
 タカトラノオハバチ *Birka carinifrons* (Malaise, 1931) (*Aneugmenus carnifrons* Malaise)

引用文献

- 阿部正喜・富樫一次. 1989. Xyelidae ナギナタハバチ科 ほか, 平嶋義宏 (監修), 日本産昆虫総目録, II, pp.541-560.
- Chou, L.-Y. & Naito, T. 1991. Name Lists of Insects in Taiwan-Hymenoptera : Symphyta. Chinese J. Ent., 11(1) : 85-95. (In Chinese and English.)
- 久居宣夫. 1993. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録 (5). 自然教育園報告, (24) : 1-8.
- 久居宣夫. 1999. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録 (11). 自然教育園報告, (30) : 17-24.
- Kim, C. W., Lee, J. W., Park, J. S., Kim, B. J. & Park J. C. 1994. Hymenoptera. In The Entomological Society of Korea and Korean Society of Applied Entomology, Check List of Insects from Korea, pp. 216-269. Kon-Kuk University Press, Seoul.
- 文部省国立自然教育園. 1952. 国立自然教育園動物目録. 第1集. 昆虫綱. 国立自然教育園基礎資料, (1) : 1-42.
- 奥谷禎一. 1967a. 日本産広腰亜目(膜翅目)の食草 (I). 日本応用動物昆虫学会誌, 11 : 43-49.
- 奥谷禎一. 1967b. 日本産広腰亜目(膜翅目)の食草 (II). 日本応用動物昆虫学会誌, 11 : 90-99.
- 奥谷禎一. 1970. 日本産広腰亜目(膜翅目)の食草 (III). 日本応用動物昆虫学会誌, 14 : 25-28.
- 篠原明彦. 1986. ハバチ類. 板橋区産膜翅目目録, 広腰亜目. 板橋区昆虫類等実態調査, pp.123-124, 126-127.
- 篠原明彦. 2000. 皇居のハバチ類. 国立科学博物館専報, (35) : 295-305.
- Takeuchi, K. 1936. Tenthredinoidea of Saghalien. *Tenthredo*, Kyoto, 1 : 53-108.
- 東京都北区. 1988. 北区昆虫調査報告書. 119pp.
- 東京都目黒区. 1985. 「街の自然12か月」資料編. 目黒区産動植物目録. 80pp.

Summary

A result of the survey of sawfly fauna of the garden of the Institute for Nature Study, Tokyo, made in 1999-2000 is presented. Twenty-seven species of sawflies and woodwasps obtained are listed with collection data, distributional range and known host-plants for each species. They are one species of Xiphydriidae, one species of Argidae, and 25 species of Tenthredinidae. Three species of the Tenthredinidae have been determined only to genera. In addition to these, two tenthredinid species were found but their generic position has not been clarified, and 65 specimens of the tenthredinid genus *Pachyprotasis* were collected but not determined to species. Thirty-two species of sawflies and woodwasps previously recorded from the Institute for Nature Study but not found during the present survey are listed separately. Of the 41 species of sawflies and woodwasps found in the survey made nearly 50 years ago, 31 species were not re-discovered in the present survey. This apparently large difference in species composition between the results of the two surveys in this same area may possibly reflect the large change in natural environments within and around the garden of the Institute for Nature Study in the last 50 years.